

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
杉山 敏宏、高橋 健司			
金4、5			
添付ファイル			

科目の概要	精神における看護援助を多角的な面より捉える。障がいの面だけにスポットをあてるのではなく、心をより豊かにするためには、現在何が求められているのか、何が必要なのかを心理面からも探り学習する。また、精神看護におけるコミュニケーション技法を学び、プロセスレコードを作成し振り返りを入れながら基礎的知識の確立を養う。また、POS(患者志向・問題志向)の理念を導入し、SORP(ソープ)の記述方法を学び患者理解につなげる。さらに、現在看護場面においても活用されつつある代替療法や、自己を知ることが出来る内観療法の理解を深めその学びを看護実践場面に生かす。
授業の内容	<p>第1回 授業オリエンテーション(授業の進め方、成績評価方法等)・患者理解と治療(講義) 精神科の症状別患者の理解と治療的かわりについて。</p> <p>第2回 精神科ケアの方法、コミュニケーション技法をまなぶ(1)(講義) 事前にコミュニケーションとは何かを考えて臨むこと。</p> <p>第3回 表情看護から読み取る非言語的コミュニケーション(2)(講義) 自分自身の普段の表情を思い出して授業に臨むこと。</p> <p>第4回 プロセスレコード(1)(講義) 事前にプロセスレコードとは何かについて考え授業に臨むこと。</p> <p>第5回 「演習」：プロセスレコードの展開(2) 演習を通して記載していくので、前週の授業を復習しておくこと。</p> <p>第6回 「演習」：プロセスレコードの展開(3) 患者との関わり(自分の体験)に基づくプロセスレコードを完成させる。</p> <p>第7回 「演習」：統合失調症の事例(1) 事前に教科書、精神看護の基礎の統合失調症について学習しておくこと。</p> <p>第8回 「演習」：アルコール依存症の事例(2) 事前に教科書、精神看護の基礎のアルコール依存症について学習しておくこと。</p> <p>第9回 精神科のPOS(問題志向システム)について(1)(講義) 患者本位のPOS(患者志向・問題志向)の理念について、実際の応用場面について説明する。</p> <p>第10回 精神科の看護経過記録、SOAP(ソープ)について(2)(講義) 看護・医療現場で使われている様々なSORPと精神科本来のSORPと比較しその利点を学習する。</p> <p>第11回 「演習」：精神科の看護経過記録、SOAP(ソープ)で実践(3) 事例での場面から、SORPで記入する意味を考えながら実際の実習場面に応用できること。</p> <p>第12回 身体拘束について(講義・演習) 事前に身体拘束を行なう意味や目的について事前に教科書などを利用して学習しておくこと。</p> <p>第13回 「演習」：代替療法 事前学習の調べた内容から、代替療法を行う意味や目的、効果についてグループディスカッションを行う。</p> <p>第14回 「演習」：内観について ミニ内観体験 事前に内観と言う言葉を調べて授業に臨むこと。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1)精神を病むとは極めて特別なことなのか、その基本的な原点に立ち精神看護を理解することができる。 2)精神科の医療現場を授業で正しく理解し、本来あるべき患者中心の精神医療を理解することができる。 3)精神科病院、病棟の特長と治療の関係性について学ぶことができる。 4)他者とのコミュニケーション技法にはどのようなものがあるかを言うことができる。 5)表情看護から読み取る、非言語的コミュニケーションを応用することができる。 6)プロセスレコードについての理解を深めることができ、患者-看護師関係のアセスメントができる。 7)事例を通して、疾患の理解を深め看護実践能力を高め自分の看護観を育むことができる。 8)精神科における看護が患者中心であるために、POS(患者志向・問題志向)を学び患者理解につなげる。 9)精神科のPOSの理念を理解し、それに基づいた看護経過記録を習得し、実際に活用することができる。 10)身体拘束がなぜ必要なのか、さらに身体拘束の際に考えられる障害や事故について学ぶ。 11)代替療法の種類と方法を理解し、看護場面のどのような場面で活かされているかを学ぶ。 12)内観療法とは、自分の内面を客観的にみることであり、本来の自分を知ることができる。 13)日本発祥の内観療法から世界のナイカンに発展し、看護の医療現場でも効果を上げている事実を学ぶ。 14)生まれてから義務教育までいくらお金がかかっているのかを計算し、生かされている自分について学ぶ。
授業の方法	【授業形態】講義、演習を通して遂行する。

	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループワークやディベートを講義で1/2行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験、レポート・演習内容、受講程度</p> <p>【割合】 定期試験(50%)、レポート・演習内容(40%)、受講態度(10%)</p>
教科書・テキスト	系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学②
参考書	<p>「表情看護のすすめ」 平澤久一 監修 (メディカ出版)</p> <p>内観で<自分>と出会う 長島正博/長島美稚子【著】 (春秋社)</p> <p>精神科POSの手引き―患者志向とチーム医療をめざして (医学書院)</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>授業テーマによっては、事前に調べてくるように指示を出して、講義や演習の中で意見をフィードバックする。</p> <p>また、提示する課題レポートに関しては、参考文献などを通して調べ自分の考えを述べること。</p>
履修上の留意事項	講義及び演習中の私語、携帯、スマートフォンの操作は厳禁とする。
オフィスアワー	「火曜日 13時～16時」
課題に対するフィードバックの方法	講義の中や必要時、適時個々に指導する。
実務経験	看護師
その他	なし